

鷹岡小学校訪問実習レポート：
提案授業に関する一考察

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻 公開日: 2013-04-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長崎, 榮三, 石上, 靖芳, 山本, 真人, 品川, 秀一, 小笠原, 忠幸, 三上, 聡, 神田, 憲興, 黒柳, 友義, 速水, 二葉, 木下, 久一, 堀, 友美, 近田, 絢子, 戸田, 剛 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/7305

平成 23 年 7 月 20 日

鷹岡小学校 訪問実習レポート
～提案授業に関する一考察～

静岡大学教職大学院 ◎教授 長崎榮三 ◎准教授 石上靖芳 山本真人
○院生 品川秀一 小笠原忠幸 三上 聡 神田憲興 黒柳友義
速水二葉 木下久一 堀 友美 近田絢子 戸田 剛

【レポートの概要】

<教師の手だてからの分析>

- ◎ウェビングは本時では有効に活用できていなかったが、拡散的発想のための学習方略としては児童に身につけさせたい価値ある方略であり、学習方法を工夫すれば、小学生が身につけることは可能である。
- ◎ウェビングはほとんど見られなかったが、絵を描くことで子供たちが情景を思い浮かべ、自分のイメージを広げ、「物語」を書くことができていたことから、絵を描くことは、自分の考えをもち、イメージを広げる手段として、有効であった。
- ◎話し合いによって、個々の感じ方の違いに気づき、他者の読みから感化され、自分の読みを広げられたと考えられる児童は、6名の抽出児の中では1名だけであった。何をどのように話し合うのかといった、より細かな話し合いの手立てを工夫することが必要であるだろう。

<子どもの学びについて>

- ◎ほとんどの児童が、俳句から物語を書くことができていた。その理由としては、「書くこと」に対する指導が継続的になされてきているからだと思われる。
- ◎その一方で、約8割の児童が俳句の世界観を活かしきっておらず、自分の世界で自由に表現していた。学習指導要領では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の中で、「易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること」を指導するように明記されており、本教材での「世界観を楽しむ」という主目的は結果から見ても達成されていることは明らかである。
- ◎しかし、授業者がねらうところまで到達することが目標であるならば、①子ども同士が「かかわり合う場」を設定すること、②「かかわり合いの仕方」というスキル面を充実させること、がまず必要となってくるものと思われる。この2点を深めていくことが、「互いに高め合う子」の育成や、「言語活動の充実」にもつながっていくのではないだろうか。

1. 授業の概要

- (1) 授業日 平成23年7月6日(水) 第3校時
- (2) 授業者 鈴木教諭
- (3) 教科 国語科
- (4) 学級 3年
- (5) 教材名 「俳句に親しむ」
- (6) 本時のねらい
初めて、「はねわっててんとう虫のとびいずる」の句をよんだ子どもたちが、何度も音読したり、句の言葉をウェビングしたり、友だちと話し合ったりする活動を通して、句の情景を思い浮かべて、短い物語を作る。
- (7) 本時の言語活動(手立て)

- ①絵、写真（てんとう虫）などの写真から、読み取ったことを基に話したり聞いたりする。
- ②俳句の言葉から、「場所」「時間」「色」「音」などについてイメージしたことを、ウェビングの手法を使ってかく。
- ③ウェビングしたことを基に、俳句から想像したことを述べ合う。
- ④身近なことや想像したことなどを基に、俳句を作ったり、物語を書いたりする。

2. 子どもの学び

(1) 全体分析

私たちは独自に作成したルーブリック（評価指標）をもとに、児童のワークシートから学習の成果を分析した。

本時の最終目標は「句の情景を思い浮かべて、短い物語を作る」ことである。そのため、「物語まで書けた」、「イメージを広げる活動がウェビングや絵の段階で終わってしまった」を指標（BかC）のひとつとした。できあがった物語は、「はねわって」、「とびいずる」などの言葉に着目して情景を豊かに表現できているものから、「てんとう虫」について書かれてはいるものの、句の情景を広げきれてはいないものまで多岐に渡っていた。

そこで、3文以上で書かれた物語を「豊かに表現」できたと見なし、もうひとつの評価指標（AかB）とした。なお、ここでの3文とは、物語が「起・承・結」、「起・承・転」で構成されていることを意味している。てんとう虫の動き（「静」から「動」）にストーリー性を持たせることができた児童を、イメージを広げることができた児童と見なしたのである。

ルーブリックは以下の通りである。

- A：俳句から想像したイメージが3文以上の物語に表れている。
- B：てんとう虫を題材にした物語が書かれている。
- C：俳句をウェビングか絵でイメージしている。

	人数	割合	事例
A	6人	20%	<p>物語を読むと俳句が想像できる子</p> <p>（抽出児Dさん：てんとう虫がアブラ虫を食べに草むらにはねをひろげてとんでいきました。その草むらにはアブラムシがいませんでした。またはねをひろげてとんでいきました。）</p> <p>（抽出児Eさん：ぼくはてんとうむし、これからはじめてそらにとぶんだよ。だけどちょっぴりこわいんだ。はじめてだからゆうきがないんだよ。よしおもいきってとんでみよう。えい、やったーとべた、とべた！）</p>
B	23人	77%	<p>自分の世界観で物語が書かれている子</p> <p>（Fさん：てんとう虫さんはあついでちかくの池で水をのむことにしました。〔略〕日がポカポカしてきもちいいのでひるねをしました。「おやすみなさい。」）</p> <p>（抽出児Gさん：つくしの上になにかがいます。てんとう虫です。てんとう虫は、つくしやはなのうえにとまります。そして、ちょうちょうまできたらとびます。なにしろてんとう虫は高いところにいかないととべませんから。（てんとう虫の絵）「オレをバカにするな〜。」（てんとう虫の絵）「人げんはとべないだろ〜。」小さ</p>

			いくせになまいきいうな。)
C	1人	3%	てんとう虫が飛んでいる絵を描いた子 (Hさん)

この結果から、「書くことへの負担を感じている児童が少ない」、「自分の思いを自由に表現できる児童が多い」、「友達の見解を自分の考えに取り入れようとしている児童が多い」ことが読み取れる。これは授業等における「書く」指導が継続的に行われていること、人間関係づくりに力を入れた温かい学級経営がなされていることが、結果として表れているものと思われる。

今後、より多くの児童が「A」になるためには、「分かり合う場」つまり、自分の考えを伝え、級友の見解を聞く機会を意図的に設ける必要があると思われる。話す活動は、自分の思い・考えを表現することによって、よりまとまることにつながり、聞く活動は、異なった見方・考え方に触れることによって、新たな知識を得る場にもなる。本時では、思い思いの発想で物語が書けたものの、「てんとう虫がすっているみつがおいしいのかな (てんとう虫が飛んだことに触れていない)」や「6匹でりょこうにいきました (どのように飛んだのかが明確ではない)」などに見られる、句にそぐわない記述もあった。もし、効果的なかかわり合いがなされたならば、不自然さを指摘されたり、級友の作品との違いから違和感を覚えたりしたことにより、これらを疑問視でき、より教師の意図した物語が、各個人の中でつくられたと思われる。

また、「何を話せばいいのか」「どこに着目すればいいのか」というかかわり合いのポイントが明示されていれば、より深い学びにつながったのではないだろうか。付随して、授業の中のどの時間帯で話し合いをさせるかも重要な要素となる。児童それぞれの考えが固定化されてから話し合いの場を持って意思を確認することにはなるが、他者から感化されるきっかけとはならない。

かかわり合う活動を重ねることで、子どもたちは話し合いの仕方を学習する。児童はコツをつかみ、その結果、教師の予想以上の考えを生み出すこともある。かかわり合う活動を充実させることこそが、貴校の研修テーマでもある「互いに高め合う子」の育成につながり、ひいては「言語活動の充実」にもつながっていくのではないだろうか。

(2) 抽出児の分析・・・授業の視点より

①ウェビングは、子どもたちが情景を思い浮かべ、イメージを広げる手段として有効であったか。(自分の考えを持つ)

→ ウェビングを行った児童は、抽出児の中にはいなかった。全体を見てもウェビングを行った児童はわずかで、ほとんどの児童が絵をかいてイメージを広げていた。

絵は、同じような絵がなく、一人一人が五・七・五の少ない言葉からそれぞれにイメージを広げていたことが分かる。

②話し合い活動を通して、個々の感じ方の違いに気づき、本時の目標に迫ることができたか。

→ 積極的に発表する児童もいたが、「個々の感じ方に気づく」ところまでは、話し合いが進まなかった。前の活動においてウェビングをもっと活用できていれば、書いた言葉を発表することができたかもしれない。また、教師が発表者の言葉に対し褒めたり広げたりできると、より話し合いが深まり、本時の目標に迫ることができたのではと感じた。

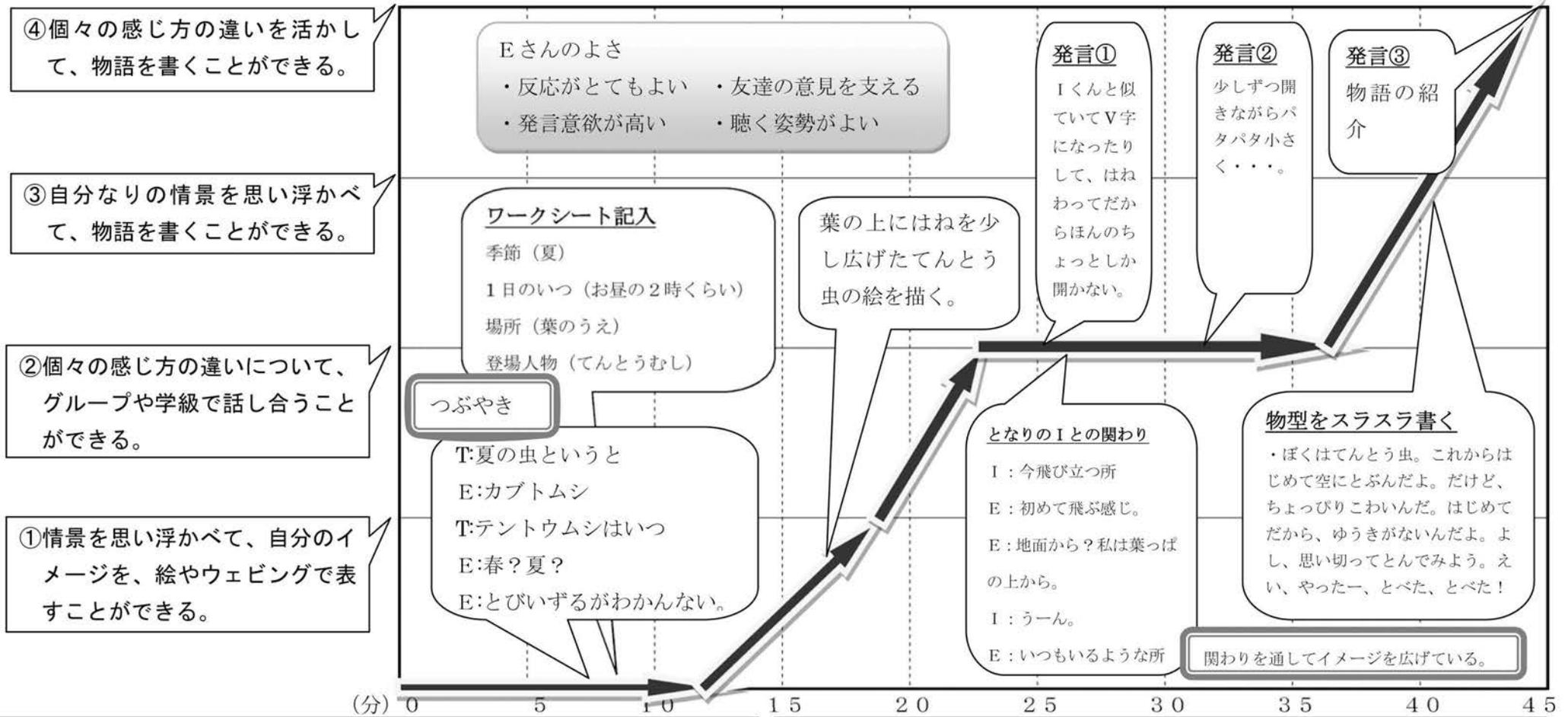
(3) 個別分析 (例)

次頁「訪問実習授業分析シート」参照

【訪問実習 授業分析シート】

◆学校：富士市立鷹岡小学校 ◆日時：7月6日（水）3時間目 ◆学級：第3学年〇組 ◆教科・教材名：国語・「俳句に親しむ」

◆抽出児【E】さんの表れ



①ウェビングは、子どもたちが情景を思い浮かべ、イメージを広げる手段として有効であったか。（自分の考えをもつ）
・ウェビングはしなかったが、絵を自分のイメージに合わせて描いていた。絵を描きながら、自分なりのイメージを広げていった。物語を書く時には、スラスラと書くことができたことから、絵を描くことは、Eさんにとってイメージを広げる手段として、有効に働いていたと言える。

②話し合い活動を通して、個々の感じ方の違いに気づき、本時の目標に迫ることができたか。（言語活動）
・話し合い活動では意欲的に挙手し、3回発言している。友達の意見には、うんうんと頷いたり、拍手をしたりして友達の考えを受け止めていた。さらに、自分なりのイメージを広げて、意欲的に物語を書くことができ、本時の目標を達成する姿が見られた。